

HQR010-P03

会場:コンベンションホール

時間: 5月26日17:15-18:45

シリアのユーフラテス河中流域ビシュリ山系における遺跡群の年代と人の移動

14C Dates of archeological sites and possibilities of human migration in the Bishri Region, Middle Euphrates, Syria

中村 俊夫^{1*}, 星野光雄², 田中 剛², 吉田英一³, 斉藤 毅⁴, 東田和弘³, 桂田祐介³

Toshio Nakamura^{1*}, Mitsuo Hoshino², Tsuyoshi Tanaka², Hidekazu Yoshida³, Takeshi Saito⁴, Kazuhiro Tsukada³, Yusuke Katsurada³

¹名古屋大学年代測定総合研究センター, ²名古屋大学環境学研究科, ³名古屋大学博物館, ⁴名城大学理工学部

¹CCR Nagoya Univ., ²EES Nagoya Univ., ³Nagoya University Museum, ⁴FES Meijo Univ.

中近東のシリア=アラブ共和国ラッカ市の南東にあるビシュリ山系において、ユーフラテス中流域にある考古遺跡の発掘調査および地理・地質学的な調査を行った。この研究の主たる目的は、この地のガーネム・アル=アリ遺跡の盛衰の編年を、名古屋大学の加速器質量分析による14C年代測定により確立することである。

ガーネム・アル=アリ遺跡は、ユーフラテス河が造る最低位段丘面に位置する。遺跡の北東部においてNo.1とNo.2の2つのトレンチが発掘され、特にNo.2では、8層の建築層が確認された。建築層に付随して焼土や炭化物の層や土器の破片が検出された。各層は明確であり、人為的に作られたものであることは間違いない。2つのトレンチ及び遺跡周囲の路頭から、木炭片や木片など合計31点の木炭試料を採取した。

本研究により、ガーネム・アル=アリ遺跡について、14C年代を暦年校正した年代として3100-2900 cal BCから2250-2050 cal BCの年代、特に2650-2450 cal BCに集中する年代が得られた。このガーネム・アル=アリ遺跡から採取された土器片に基づく編年では、前期青銅器時代のIV期とIII期が主体となっており、14C年代による編年と調和的である。しかし、一方で、14C年代測定から3000BCを超えて古い年代が得られており、今後、土器編年と14C年代による編年をきちんと整理する必要がある。

一方、ビシュリ山系の現在の砂漠地帯にケルン墓がたくさん見つかっており、藤井・足立(2009)による2009年6月の調査において、117, 130, 131号墓から木炭試料が採取された。それらの14C年代からケルン墓の成立年代は、校正暦年代で1940-1670 cal BCと得られ、中期青銅器時代を示している。このように、ガーネム・アル=アリ遺跡の終わりからビシュリ山系のケルン墓の盛衰へと、調和的に連続している。このことは、2000BC頃に、ガーネム・アル=アリ遺跡が何らかの理由により廃棄され、ケルン墓のあるビシュリ山系へ移り住んでいったことを示唆する。この点を確かめるために、ガーネム・アル=アリ遺跡の近傍の丘の上にある石棺墓の年代測定を行った。沼本・久米(2009)により、墓から採取されたものである。測定結果は、2450-2300 cal BCでガーネム・アル=アリ遺跡が使われた年代と一致する。すなわち、河岸段丘の上にある墓は、ガーネム・アル=アリ遺跡と関連の深いもので、ビシュリ山系に住んだ人とは直接の関係はないことが示された。ユーフラテス河の低位段丘に住んでいた人々が姿を消し、ビシュリ山系の現在の砂漠地帯で大規模なケルン墓を残した人々が姿を現すこの時期に、いったい何が起きたのか。どのような環境変動が発生したのか。今後に残された重大な課題である。

キーワード: 14C年代, 考古遺跡, 前期青銅器時代, ユーフラテス河中流域, ビシュリ山系, 移住

Keywords: 14C age, archeological site, early Bronze Age, the Middle Euphrates, Bishri Mountains, migration